

第11回地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成29年度）

| | |
|--|------------------------|
| 小林 達 | 山形県西村山郡 朝日町立病院・院長 |
| <p>昭和55年東北大学医学部卒。平成3年より、朝日町立病院に副院長として着任、その後平成6年には同病院の院長に就任し、現在まで26年間にわたり、地域における医療の確保と保健活動の充実、発展に尽力してきた。朝日町は山形県内でも2番目に高齢化率が高く、患者は高齢者が多いことから、単に病気を治すというだけでなく、予防から治療、在宅医療に至るまで、一貫した医療サービスを提供し、地域包括ケアの拠点として積極的に取り組んできた。特に在宅医療については以前から力を入れており、平成12年度に院内に在宅医療相談室を設置し、ケアプラン作成や訪問看護、訪問診療を行っており、平成18年には通所リハビリテーションを開設している。平成21年には地域包括医療・ケア施設として認定を受け、地域医療の充実に努めてきた。また、平成20年度から始まった特定健診についても、国保直診病院としていち早く取り組み、生活習慣病予防対策を推進している。さらに、臨床研修制度の開始に伴い、平成16年に「臨床研修協力施設」の認定を受け、毎年10人程度の研修医を受け入れ、地域医療について理解を深めてもらうなどの研修指導にも積極的に取り組んでいる。これらの取り組みは、町民の健康保持、増進に貢献しており、地域医療の確保に昼夜を問わず献身的に努めている功績は大きい。</p> | |
| 佐久間 暢夫 | 山口県萩市 萩市国民健康保険川上診療所・所長 |
| <p>昭和61年自治医科大学卒。昭和63年より、美和町立美和病院(現・岩国市)でへき地勤務を開始し、川上村国保診療所への着任後は、高齢化の進む住民の健康状態だけではなく、生活環境等を熟知し、幅広い知識・技術を生かし住民の健康管理に取り組み、住民や患者からの信頼も厚い。住民健診をはじめ、保育園嘱託医、小中学校医、老人ホーム医などとしても地域に関わり、住民の健康と暮らしを守り、地域医療に幅広く貢献している。また、日常診療に励む傍ら、川上村国民健康保険運営協議会委員(12年間)・萩市医師会理事を務め、さらに山口県立萩看護学校(平成7年度～)や山口県高等歯科衛生士学院(平成18年度～)及び萩准看護学院(平成21年度～)では、非常勤講師を務めるなど多岐にわたり医療の適正化・充実・育成に尽力している。医師臨床研修も積極的に受け入れ、地域医療・へき地医療への医師確保や研修医への指導育成に貢献し、平成25年から萩市休日急患診療センター所長を務め救急医療の機能強化に努めた。永きにわたり、県内過疎地域の医療機関において情熱をもって勤務し、地域医療の確保・充実及び住民の健康福祉の増進に多大に貢献し続けている。</p> | |

| | |
|---|---|
| 鎌村 好孝 | 徳島県徳島市 徳島県保健福祉部・次長(併)徳島県立中央病院 地域医療科・部長 |
| <p>昭和61年自治医科大学卒。徳島県職員として採用されてから、徳島県内のへき地中核病院である県立海部病院、離島の出羽島診療所での勤務を皮切りに、その後は県内のへき地診療所である木頭村診療所や木屋平診療所に所長として勤務した。義務年限終了後に勤務した上勝町診療所では、公設民営のデイサービスセンターと民間施設の特別養護老人ホームが一体となった上勝町包括ケアセンターの立ち上げに中心的な役割を果たした。平成13年4月からは、徳島県中央病院内に設置されたへき地医療支援機構の初代専任担当者に任命され、山間地の多い県下全域を対象とするへき地医療支援体制の整備に取り組んだ。平成20年度からは徳島県保健福祉部医療政策課医療環境整備室長として、平成22年度からは地域医療再生室長として、地域における医師不足に対処するため、県立へき地診療所の運営や将来の医師確保を図るための施策に取り組んだ。以降も県立中央病院や県庁で災害医療対策や医療介護の提供体制の構築、社会保障制度改革全般を統括する等、主要な役職における任務を果たした。へき地診療所での常勤職を離れた後も、県内各地の山間地等、医療に恵まれないへき地診療所における週4日程度の診察を行い、管理職となってからも週1～2日の診察を継続している。</p> | |
| 主藤 久次 | 長崎県対馬市 医療法人すとう内科医院・院長 |
| <p>昭和51年北里大学医学部卒。国立長崎中央病院研修医を経て昭和53年6月より長崎県離島医療圏組合上対馬病院に勤務。昭和54年に国立長崎中央病院にて1年間研修した後、長崎県離島医療圏組合上対馬病院と対馬いづはら病院に勤務。平成3年に対馬市において診療所を開業し、国境離島である対馬島の長崎県離島医療圏組合の病院において、通算で10年以上勤務した。その後、同じ対馬島内で診療所を開業し、以来26年にわたり現在も「医は心」を基本理念に患者に寄り添った医療サービスの提供を実践している。長年にわたる本県の離島医療に対する貢献はもとより、人格高潔にして温情溢れる人柄により多くの地域住民の人望を集めるとともに、識見豊かで統率力、実行力に優れ、確かな指導力により地域保健医療関係者からの信頼も厚く、人格、業績ともに地域医療への貢献は大きい。</p> | |

| | |
|---|--------------------------------|
| 赤池 義昭 | 宮崎県串間市 本城診療所・(元)所長 |
| <p>昭和40年九州大学医学部卒。鹿児島県出身で、福岡で勤務していたところ、当時無医地区であった宮崎県串間市本城地区の医療を担いたいと、昭和50年5月に同地区に「本城診療所」を開院し、以来、平成29年5月に閉院するまで、42年の長きにわたり、地域医療を支え続け、過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎市町村である串間市で、医療の確保及び向上に寄与してきた。また、昭和50年4月から平成25年3月までの38年間、本城小・中学校の学校医として学校の保健管理の指導等を務めるとともに、串間市内の保育所の嘱託医としても多年にわたり保健・予防を行い、健康福祉の増進に寄与した。また、串間市国民健康保険運営協議会の委員として、通算12年以上(記録が残る平成3年以降)務め、国民健康保険事業の運営に関する重要事項を審議し、保険者である串間市に対し答申している。加えて、休日在宅当番医や、日南市初期夜間急病センターでの診療への協力など、地域の救急医療への貢献も著しい。南那珂医師会では理事・議長・副議長を務めるなど、南那珂地域の医療の推進に積極的に貢献してきた。</p> | |
| 高石 利博 | 沖縄県国頭郡 医療法人博寿会もとぶ記念病院・理事長(兼)院長 |
| <p>昭和45年新潟大学医学部卒。主に東京で精神科医として研鑽を積み、昭和50年、人口当たりの精神疾患患者の多い沖縄県に少しでも貢献できればとの思いで、那覇市の田崎病院に勤務した。そこで、宜野湾市の玉木病院に所属していた、日本の地域精神科医療の先達である島成郎先生の感化を受け、島先生が久米島で実践していた地域精神科医療を学んだ。昭和55年、精神科病院のない沖縄県北部地域に開放病床を中心とする本部記念病院を開設し、地域の精神病疾患の患者・家族に大きく貢献している。また、病院での診療行為ばかりでなく毎月、伊江島(離島)への巡回診療も積極的に行い、地域精神科医療へ大きく貢献している。平成5年には老人性認知症疾患治療病棟及び同デイケアを開設し、地域の高齢化問題への対応や平成14年には応急入院病院の指定を受ける等、時代の求める地域医療の発展に努力してきた。平成12年からは、北部福祉保健所の嘱託医として、県保健福祉保健行政へも多大な貢献をしてきた。同時に北部地区医師会監事、沖縄県精神科病院協会顧問、全日本病院協会沖縄県支部理事等の活動へも積極的に協力し、沖縄県警察医、沖縄県犯罪被害者カウンセリングアドバイザー、地域の学校医等を引き受け、地域への貢献は計り知れないものがある。</p> | |